



特別  
チ12  
3643  
54



安達塚



自注

陸奥国名所  
 曰政多紀比古  
 のく云  
 与川は関津奥  
 名所也 結因法師  
 都と云は共々  
 武隈の東より  
 陸奥の東に  
 夫々 疾運  
 也と云は武隈の  
 坂と陸奥名所  
 陸奥の東に  
 陸奥の東に

お達塚

塚作の物

是ハ都方より出た僧を我いま  
 陸奥名所曰政多紀比古程  
 只今おのひとからのと志ハ都  
 震と云は共々  
 与川は関津奥  
 公ハけ隈にお達塚より  
 相ハはら塚と云は鬼神の  
 ともはねまの人と名を  
 一ハ



元花英華

終南山 張嶠

白雲幽絶處 自  
古屬樵人

語を以て思ひと今思ふ事か  
おろろよ

昼。日。言。て。し。程。あ。は。し。思。え。る。事

い。は。る。宿。成。る。と。ね。し。

詞花集 堀川右大臣

冥城人同之の  
あまのまの

弓と云也引了る  
るけし

白雲と本はこら  
るけし

新古今 高倉院  
あまのまの

人子稀なる言に淋しい  
推人なる言に淋しい  
白雲幽絶の言に淋しい  
身とありてそのあはれを  
人こらるる業に

玉葉集 順徳院

凡本と遠山と  
すまそとこれ妹の言月

新古今 光俊

三月のけしこと  
おろろよ

おろろよ 凡本と遠山と

世に

生れ

い

の

葉

昔

か

いふは元禄の時に  
世所はうらやましい事  
にあり

利益 利益  
巨益と均と云事

申すは。いふ中比能なる者。江戸  
比。汗言て比程より一度は宿所俵比  
家よりいふも。元禄の菴宿所俵比  
申すは。いふ中比。其申すは。宿所  
申すは。いふ中比。申すは。申すは。  
汗言て前後と云事。其申すは。出家  
の事と云事。別乃宿所俵比。一度は  
ありやと云事。又。ありや。其申す  
申すは。宿所俵比。申すは。申すは。

汗言て前後と云事。其申すは。出家  
の事と云事。別乃宿所俵比。一度は  
ありやと云事。又。ありや。其申す  
申すは。宿所俵比。申すは。申すは。  
世京の家内も外もあらす。申すは。か  
す。申すは。申すは。申すは。申すは。  
申すは。申すは。申すは。申すは。申すは。  
申すは。申すは。申すは。申すは。申すは。  
申すは。申すは。申すは。申すは。申すは。  
申すは。申すは。申すは。申すは。申すは。





夏と云ふ  
と昔の夜車や

いひおとれ  
新後拾遺 太上天皇

おとれと云ふ  
おとれと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

大和物語 兼基

いふと云ふ  
いふと云ふ

常陸守 名はわ  
いふと云ふ

古今 直子朝臣  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

名取川 陸奥国  
名取川

名取川 陸奥国  
名取川

名取川 陸奥国  
名取川

名取川 陸奥国  
名取川

名取川 陸奥国  
名取川

名取川 陸奥国  
名取川

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ

いふと云ふ  
いふと云ふ



五の巻 法華曰  
 女人身猶有五障  
 一者不得作梵天  
 二者帝釋三者魔  
 王四者轉輪聖王  
 五者佛身云何女  
 身速得成佛  
 此五障を以てマコト  
 止觀名義集具  
 外云  
 實相  
 大論法華等諸經  
 論云云莫如起信論等  
 云云安樂集佛地果  
 德真如實相ト云体

出の巻の如く經の音に  
 不越あゝあゝの如く  
 五の巻の如く  
 三徳圓滿の如く  
 實相の如く  
 錦の如く  
 瓔珞の如く  
 女性の水邊の如く  
 人々名の如く

非偽妄曰有性無  
 改異曰如無相不  
 相是曰實相  
 衆生は其の實相の  
 極處に達するは  
 ちて殊容とあり  
 かし法華に達す  
 べきとあり今  
 本仏に達するは  
 今之の錦の如く  
 蓮の如く  
 引て在るは  
 仙身とあり今  
 項羽傳富貴不取  
 如衣錦夜行の如く  
 阿彌陀  
 經而曼陀羅華  
 詩經而花の説

自在の如く  
 音の如く  
 袂の如く  
 行の如く  
 明の如く  
 水邊の如く  
 人々の如く

秀路 仙男在處

具し本業瑞路経あり

金銀珠玉とててり

玉のちりしとけり

功刀 功徳し

変成男子 女人

法華十八歳に於て

女子と為りて南方に

成仁し又深院に

男子願あり今

男子早朝とけり

方々子の子も。同。うらたけれ。和。

あまももあま。あま。あま。あま。

あま。あま。あま。あま。あま。

あま。あま。あま。あま。あま。

あま。あま。あま。あま。あま。

あま。あま。あま。あま。あま。

あま。あま。あま。あま。あま。

あま。あま。あま。あま。あま。

あま。あま。あま。あま。あま。

あま。あま。あま。あま。あま。

六通 諸経論云 天眼通 二天耳 三他力 四宿命 五神境 六漏盡 仏景

自在 美釋之随心前欲自然成就故

幽冥由十音之

ちゆらとあらゆ(音とふけりゆらと音の縁)



